

石綿関連工場周辺住民調査 環境省



アスベスト(石綿)による健康被害で、兵庫県内で02~04年に中皮腫で死亡した143人の遺族に聞き取り調査した結果、36人が工場近隣の一般環境で石綿を吸い込み、発症した可能性があることが、環境省による実態調査の中間報告でわかりました。そのうち31人は大手機械メーカー「クボタ」旧神崎工場があった同県尼崎市に居住歴がありました。

石綿関連企業周辺の住民の被害実態はこれまでも研究機関や大学などが発表していますが、国がこのような調査結果を明らかにするのは初めてです。

石綿関連工場周辺の一般環境で発症した可能性のある36人のうち、石綿関連の職歴がないため、明らかに工場周辺で石綿を吸い込んだと見られるのは20人。残りの16人は工場内で吸い込んだか、周辺で吸い込んだかは断定できませんでした。

また、広島県の2カ所の造船所近くの住民2人が、環境に散ったアスベスト(石綿)を吸って石綿がんの中皮腫で死亡していたことが岡山労災病院の岸本卓巳副院長らの調査でわかりました。造船所では船の内装や動力機器などに断熱・耐火用に大量の石綿が使用されていました。石綿製造工場などではなく、石綿を使用していただけの業種による環境暴露の死亡例が確認されたのはこれが初めてです。

当社では、吹付け材、建材、粉じん及び作業環境におけるアスベスト分析を行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

資料:2006年2月10・11日付 毎日新聞

総務箇所 横山美代子